



縁(えにし) : 葉山幸嗣先生との出会い(葉山幸嗣准教授追悼号)

著者	小栗 俊之
雑誌名	和光経済
巻	52
号	1
ページ	iv-iv
発行年	2019-12
URL	http://id.nii.ac.jp/1073/00004694/

縁（えにし） —葉山幸嗣先生との出会い—

文京学院大学 人間学部 小 栗 俊 之

葉山幸嗣先生のご逝去の報に接し、謹んでお悔やみを申し上げますと共に、ここに先生との出会いと思い出を綴らせていただき追悼とさせていただきます。

葉山先生との最初の出会い、それは故大野信三先生（明治大学教授 経済学博士）の門下生が定期的集まる研究会でした。小生は恩師である元文京学院大学経営学部教授・鶴川武久先生と義父にあたる元明治大学政治経済学部教授・増澤俊彦先生にお声をかけていただき勉強の機会を得ました。研究会実施にあたり小生が受付業務をしていた際、隣でお手伝いをして下さったのが葉山先生でした。先生は当時、明治大学大学院政治経済学研究科博士課程に在学中で増澤研究室の門を叩き研究に勤しんでいる時でありました。第一印象は誠実で実直なお人柄であるということでした。研究会終了後、新お茶の水ビルの割烹「げんない」にて盃を酌み交わしながらマクロ経済学について語られていたことを覚えています。幾度か研究会でお会いする機会に恵まれ親交が深まりました。これがご縁となり、小生が奉職する文京学院大学において経営学部非常勤講師をお願いするに至りました。

葉山先生は増澤先生を師と仰ぎ、その誠実かつ実直なご性格から近況報告を含め定期的に連絡を取り合っていました。家族と共に小栗家で義父増澤先生のお宅にお邪魔した際には「これは葉山先生が送ってくれたお酒なんだ」と語り、そのお人柄を高く評価されていました。そして、恩師のために選んだお酒、おそらく口当たりや好みを考えての銘柄だと思いますが、それをぬる燗で嗜む楽しいひと時を過ごさせていただいたのです。礼を尽くす姿、師に敬意を表する姿勢は学ぶべき所であるといつも感じておりました。

2018年の3月、1通の葉書が届きました。以前、文京学院大学経営学部でご尽力いただいた海老原諭先生から和光大学経済経営学部経営学科の教員として勤務するというお知らせでした。そこで、葉山先生と海老原先生、そして小生で一席設けようという話が持ち上がりました。早速、メールにて日程を調整させていただきながら「オリエンテーションなども一通り終わり、やっと一息つけるようになりました。お誘いいただきありがとうございます」とのお返事があった後のゴールデンウィークに池袋でお会いし、人生について、大学教育のこれからについて語り合ったのが、昨日のことに思えます。

その人の人柄が縁（えにし）を結び広げていく。お付き合いをさせていただく中で学ばせていただいたことを受け継ぎ、葉山先生の分までこれからの人生を歩んでいかなければならないとこの追悼文を執筆させていただきながら心を固める機会となりました。

最後に、日々を全力で生きた先生、常に相手の立場に立って物事を考えて下さった先生、そして常に謙虚な姿勢であった葉山幸嗣先生のご冥福をお祈り申し上げ追悼文とさせていただきます（合掌）。